

# 自立活動だより



平成 29 年 9 月発行

『自立活動』は子どもが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するための学習であること『自立活動』は、授業時間を特設に設定して行う「自立活動の時間における指導」を中心に、学校教育活動全体を通じて指導していくこと等は、今年度第 1 号の「自立活動だより」(平成 29 年 5 月発行)でお伝えしました。その『自立活動』の学習スタイルは様々ですが、教材・教具を通して学習するのも一つのスタイルです。指導にあたっては、まず児童の実態を把握し、その実態に応じ、『自立活動』の 6 区分 26 項目の内容(平成 29 年 5 月発行「自立活動だより」に記載)から、どの区分どの項目か指導内容を関連付けて目標を設定し指導を行っていきます。学習にあたっては、既製の教材・教具を活用することもあります。より個々の実態、ねらいにあわせて先生たちが手作りした教材を活用することもあります。

そこで本号では、小学部で使われている先生たちの手作りによるアイデア満載の教材・教具をいくつか紹介し(ほんの一部ですが)、そのねらいや活用法、教材の良さ、制作者のアピールポイント等も紹介します。

【1ブロック】ここで紹介するのは、日常生活動作への般化を目指した教材です。日常生活の指導や課題別学習の時間でも活用されています。

## 教材：2ステップボタン練習ボード

自立活動の区分：5 身体の動き

(3)日常生活に必要な基本動作に関する事

ねらい：ボタンの服の着脱に向け、段階的にボタンの留め外しの練習ができる。

やり方 ①最初は机上に置いて練習する。

同じものを使用するので  
スムーズなステップアップができる

②紐を首からかけて練習する(衣服を着た状態に近い)

③ボタンの服の着脱を目指す。



アピールポイント

工夫点は、ボタンの難易度が 3 段階(大きなボタン→中くらいのボタン→ワイシャツのボタン)あります！  
机上で練習したものをそのまま首からかけて練習できます！

保護者の要望もあり制作してみました。

## 教材：うんぴつボード

自立活動の区分：5 身体の動き

(3)日常生活に必要な基本動作に関する事

ねらい：マグネットシートからはみ出さずに線を書くことができる。

ペンを持った手を上下左右斜め等色々な方向に動かす。



ひらがな練習の導入としても使えます。

アピールポイント

何度も繰り返して使えます(子どもが消し易い、修正しやすい)。はみ出したことで感覚が分かるようにしています！パンチで開けた穴は始点と終点を示しています。

【2ブロック】2ブロックでは、「運動は認知(知的機能)の発達やその対象に向かおうとする知的好奇心と関連が高い、姿勢・運動発達と認知発達の関係性に着目」(引用文献：飯野順子著『障害の重い子どもの授業づくり Part3』ジエース教育新社 2010)ということから、認知面の向上のために制作された教材を通して取り組んでいます。その例を紹介します。

## 教材名：棒スイッチで iPad 学習(ひらがなを学習しよう)

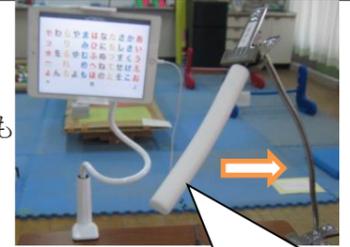
自立活動の区分：6 コミュニケーション

(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事

ねらい：iPad に直接触れて操作することが難しい肢体不自由の児童生徒でも棒スイッチで iPad を操作し、ひらがなを学習することができる。

アピールポイント

外部スイッチ、この場合は棒スイッチですが、いろいろなスイッチを設置できます。現在、実際に数種類のアプリでひらがなや色の名前、先生の名前の学習をしています。



画面をタッチする代わりにこの棒を右に押して操作します。手や腕やあご・・・できる動きで。

## 教材名：2方向3方向スライディングブロック

自立活動の区分：5 身体の動き

4 環境の把握(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

5 身体の動き((3)日常生活に必要な基本動作に関する事

対象：I 層ステージⅢの児童

ねらい：手指の操作性、目と手の協応、始点と終点の理解

アピールポイント

取っ手を抜いて終わり、と入れて終わりの 2 パターンあります。いろんな方向に変えられ、難易度もアップできます。



↑取っ手を下→右にスライドさせて抜いて終わり

## 教材名：2×2 2×3のはめ板

自立活動の区分：5 身体の動き

4 環境の把握(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

対象：II 層ステージⅣの児童

ねらい：形の弁別(主にパターン弁別)色の弁別手指の操作性

アピールポイント

使用する形、下地の色、台の大きさ等を自由に変えられ、難易度、学習のバリエーションも変えられます。



上記の 2 方向 3 方向スライディングブロック 2×2 と、2×3 のはめ板の紹介欄の“対象”とは、右図の感覚と運動の高次化発達ステージ(淑徳大学発達臨床研究センターが、40 数年にわたり検証してきた障害児の発達課程と支援方法に関する理論が示した発達のプロセス)を参照してください。

### 【ひとこと】

II 層の児童には教材を介した個別的なかかわりを最も必要とする段階である。また、教材を介したかかわりは、認知の学習でもあり、関係性の学習・調整でもある。ともいわれています。  
発達に合わせた適切な教材・教具を介してかかわることが大切ですね！  
(第 41 回 42 回淑徳大学発達臨床研修セミナー資料より)

### 感覚と運動の高次化発達ステージ

I 層 初期感覚の世界	ステージⅠ 感覚入力 II 感覚運動 III 知覚運動	感覚・身体を通して、外界への窓を開く
II 層 知覚の世界	IV 感覚入力 V 対応知覚	二項関係から三項関係へ
III 層 象徴化の世界	VI 象徴化	ことばと表現の世界の入口
IV 層 概念化の世界	VII 概念化Ⅰ VIII 概念化Ⅱ	ことばを兼ね考える世界へ

参考資料：第 42 回淑徳大学発達臨床研修セミナー資料より

